

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和4年度

市町村名	本庄市、美里町、神川町、上里町					
提案事業名	本庄地域定住自立圏 圏域内周遊サイクルルートマップ策定事業					
事業期間	令和2年度～令和2年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 圏域4市町における観光入込客数					
	(成果検証の具体的な方法) 埼玉県で毎年度実施している「観光入込客統計調査」における圏域の年間観光客数を集計する。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	A	
	従前値 (H30年1月-H30年12月)	1,767,078人	目標値 (R3年1月-R3年12月)	1,820,621人	実績値 (R3年1月-R3年12月)	2,043,723人
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況及び特記事項		構成市町の公式ホームページでの掲載や、また市町の施設や新幹線本庄早稲田駅構内の「埼玉未来空間」等にマップを配布し周知を図った。				

【事業効果の整理・原因分析】

令和2年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 圏域内を巡るサイクルルートマップ策定事業	○	定住自立圏の枠組みを活用し、圏域構成町担当者とルート等の検討を経て圏域に点在する観光名所等ランドマークをサイクリストが周遊できるような回遊性の高いサイクルルートマップを策定した。 策定したサイクルルートマップを積極的にPRし、圏域外からサイクリストを呼び込むことにより、圏域の交流人口が増え、地域活性化につながった。 また、令和3年8月8日に本庄市で開催された「埼玉サイクルフェスタ2021」において、策定したサイクルルートマップを積極的に配付及びPRしたことで、圏域外のサイクリストに対する周知と新たな交流人口の創出につながり、地域活性化に寄与した。
② 圏域内ランドマークへのサイクルラック設置事業	○	サイクリストが気軽にランドマークに立ち寄り、なおかつ休憩できる環境を整備するため、ルートマップ上のランドマークへサイクルラックを設置した。 サイクルルート利用者の利便性の向上が図られることにより、圏域を訪れるサイクリスト及び交流人口が増加した。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について十分に成果が認められた点	当該事業において、豊かな景観や起伏、史跡等、圏域のもつ特異性を活かしたルートマップを策定し周知させることにより、本庄地域は優れたサイクルコースを有する地域であることを圏域内外のサイクリストに認識いただけた事で、サイクリストを含めた圏域を訪れる観光客等が増加したと捉えている。
実施事業について成果が不十分である点	特になし
成果検証を踏まえた今後の改善策	今後もサイクリスト向けのルートマップを圏域内に配布するとともに、データ形式にて各市町公式ホームページへ掲載し、継続的に情報発信を行っていくが、それだけでは観光入込客数をより増加させることは困難なことが想定される。 コロナ禍において、観光トレンドが変化しており、国内における旅行意欲は高まっている中で、これまで以上に本庄地域定住自立圏における魅了向上を図る工夫や取組が重要となるため、「埼玉サイクルフェスタ2021」のような民間のイベントにおけるPR活動等を実施し、観光入込客数を増加させていく工夫や取組をより推進する。